

株主 通信

2018年11月 No.47
2018年度第1・第2四半期報告
(2018年4月～2018年9月)

Top Message

株主の皆様へ
業績ハイライト
ビジネスハイライト
経営人材

特集 三菱商事の女性活躍推進

CSR 復興支援活動

(ふくしま逢瀬ワイナリー)

三菱ゆかりの地を訪ねて
(小岩井農場)

株主の皆様へ

「中期経営戦略2021 ～事業経営モデルによる成長の実現～」を公表



2018年11月
代表取締役 社長
垣内 威彦

本年11月2日、2018年度上期決算に合わせて、「中期経営戦略2021～事業経営モデルによる成長の実現～」を公表いたしました。

米国と中国の二大国を中心とする地政学的力学の変化等に加え、デジタル技術の進化やプラットフォームの台頭による“第4次産業革命”ともいえるビジネスモデル変革の潮流があります。それらも踏まえて、2019年度から3カ年の経営方針をまとめました。

新中経は、4つの骨子で構成しました。

1. 事業ポートフォリオ戦略
2. 成長メカニズム
3. 人事制度改革
4. 定量目標・資本政策

当社は「三綱領」の理念の下、多様なステークホルダーの期待に応えるべく、今後も、事業経営モデルによる経済価値・社会価値・環境価値の三価値同時実現を前提とした成長を目指していきます。

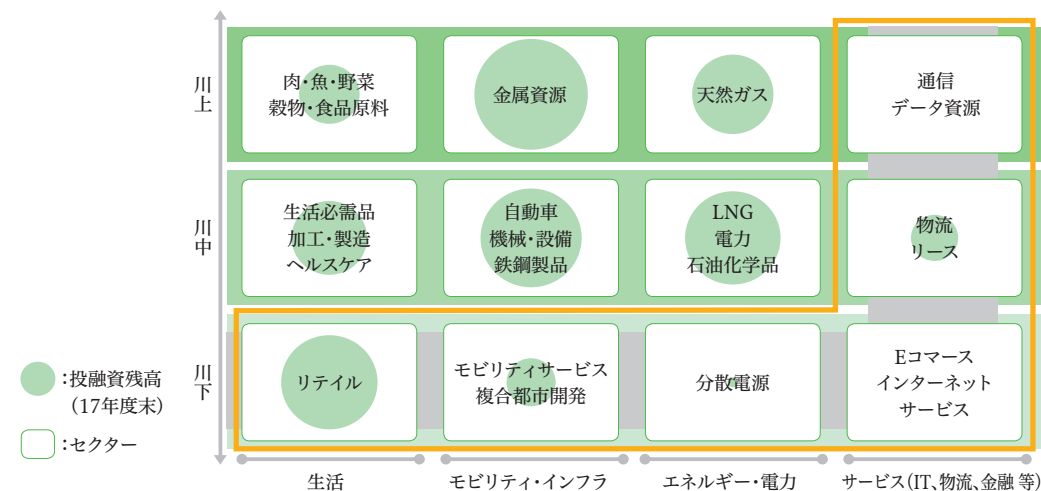
今後も一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

更なる成長に向けた事業ポートフォリオ戦略

当社には、時代の変化を捉え、その時代に最適なポートフォリオを自らの意思で構成していく責務があります。そのためにも、全産業を俯瞰し、外部環境の変化も踏まえ、次に攻めるべき分野や入替えを進める分野を全社で検討するため、12セクターで表現される事業ポートフォリオの枠組みを導入します。「生活」「モビリティ・インフラ」「エネルギー・電力」は、当社が強みを確立してきた

領域だといえますが、取組が途上である川下での事業展開が喫緊の課題となります。

一方、デジタル化の急激な進展もあり加速度的に市場が拡大している分野、すなわち「サービス」の分野は、巨大な顧客基盤を有することでポジションを取る強力なプレイヤーがひしめき合う領域です。次の中経期間は、「当社としてこの分野に参入すべきか否か」に決断を下す3年になると考えています。



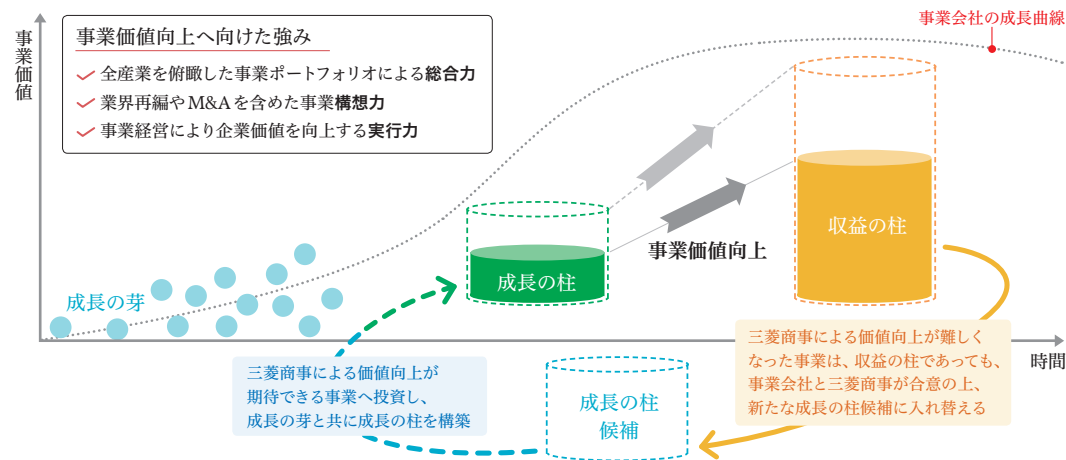
成長メカニズム

循環型成長モデルとROEの維持向上

“「成長の芽」を発掘し、これを「成長の柱」へ育て、更に事業価値を向上し、「収益の柱」へと成長させていく。そして当社が事業価値を向上できなくなった時点で入れ替える”。当社に内在するこの一連のサイクルを、事業ポートフォリオの観点も加えながら、「意識的に」回していきます。当社による価値向上に限界が生じた事業は、それがたとえ

「収益の柱」であっても、勇気をもって入替えを行いたいと思います。そして、一定の財務規律を意識しながら、次世代を担うような、より大きな成長の柱候補への再投資を行うことも検討します。結果として、入替えによるキャピタルゲインを獲得することにつながり、当社のROEの維持向上に寄与することを期待しています。

「成長の芽→成長の柱→収益の柱」を繰り返しながら事業価値を向上する成長モデル



事業構想力とデジタル戦略の強化

事業構想力を高めることで意図した事業ポートフォリオを実現していくために、全てのグループを再編し、現在の7グループ体制を10グループ体制へと改編します。

そして、全産業を俯瞰し、業界再編や技術革新等、従来の発想では考えられなかったような「成長の芽」を発掘できないか、今一度、事業ポートフォリオ全体を見直す活動を行います。そのため、新たな10グルー

プ全てに「グループ事業構想担当」を設置します。更に、経営企画部に「事業構想室」を新設し、全社と各グループが共同で案件発掘を行う体制を整えます。

また、新たにチーフ・デジタル・オフィサー（CDO）を任命し、その管下に「デジタル戦略部」を組成します。各営業グループにも「グループデジタル戦略担当」を設置することで、急激に進む産業のデジタル化の動きに対応していくこととします。

人事制度改革

外部環境変化のスピードが速まり、業界間の融合が起き、当社が対面する社会的ニーズも大きく変化しています。それらの課題に応えられる人材を育成すべく、約20年ぶりの人事制度の大改革を実行します。多様な経験を通じた経営人材の早期育成、実力主義と適材適所の徹底、経営人材の全社的活用の実現を重要なテーマとして掲げ、以下を実践します。

- 10年目ぐらいまでに経営人材に必要な基礎能力を身に付け、その後は、年齢にこだわらず経営人材として登用。

定量目標・資本政策

今回の中経の最終年度となる2021年度の定量目標については、事業系6,500億円、市況系2,500億円の合計9,000億円としました。

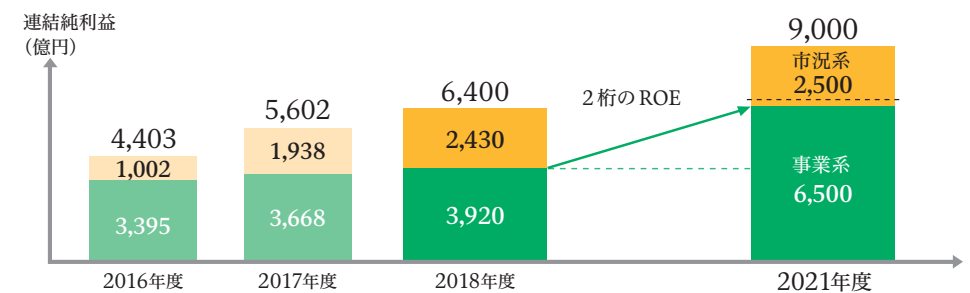
当社が現在強みを有するビジネスについては、既存の強みや競争力を更に強化する投資機会を

- 柔軟な人材の配置・登用を行うべく、資格階層を大括り化し、一定以上のポストと人材を全社で管理。
- 成果主義を徹底し、職務の難易度や成果に応じたメリハリある報酬を実現。更に、社員の成長と会社の発展の一体感を醸成するため、一定層には、現金報酬に加えて、株式を報酬として交付。
- 直属の上司が部下を評価することを基本としつつ、複数の眼での評価や観察を通じて適材が見出されていく仕組みを導入。

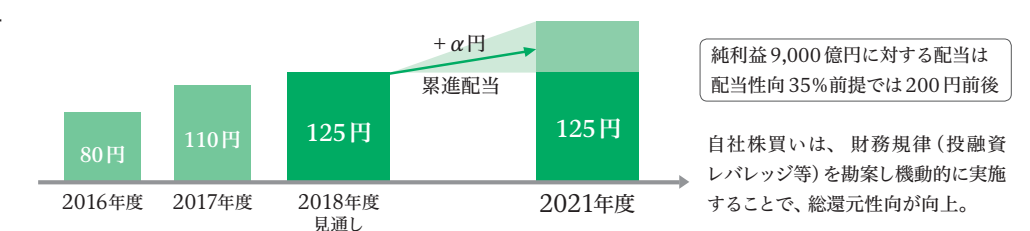
厳選し実行することで、着実な成長が期待できると見ており、2桁ROEの更なる向上を目指します。

配当は、現在の「累進配当」を継続し、更に、配当性を現在の30%の水準から将来的に35%に向けて一段引き上げることを目指します。

■ 定量目標



■ 配当方針



業績ハイライト (国際会計基準)

2018年度第2四半期
(累計)業績

当期純利益 **3,093** 億円

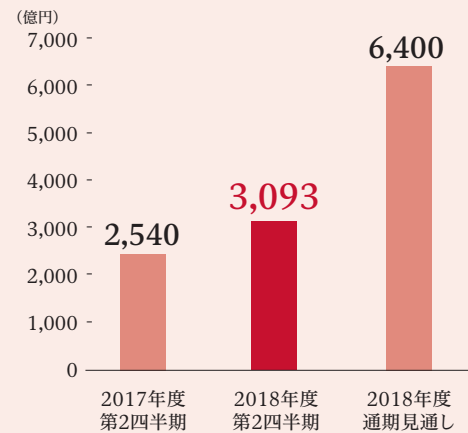
中間配当
配当金 **62** 円

2018年度
通期見通し

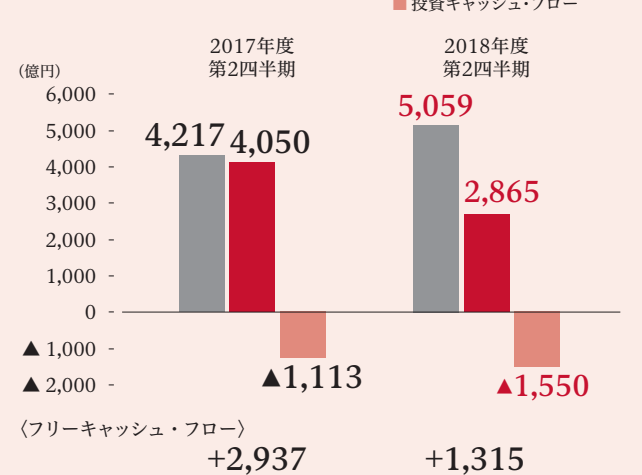
当期純利益 **6,400** 億円

年間配当
配当金 **125** 円

当期純利益



キャッシュ・フロー



2018年度第2四半期投資キャッシュ・フローの内訳

主な新規・更新投資

- 銅事業(金属グループ)
- シェールガス事業(エネルギー事業グループ)
- 豪州石炭事業(金属グループ)
- コンビニエンスストア事業(生活産業グループ)

主な売却および回収

- 豪州石炭事業(金属グループ)
- 航空機リース事業(新産業金融事業グループ)

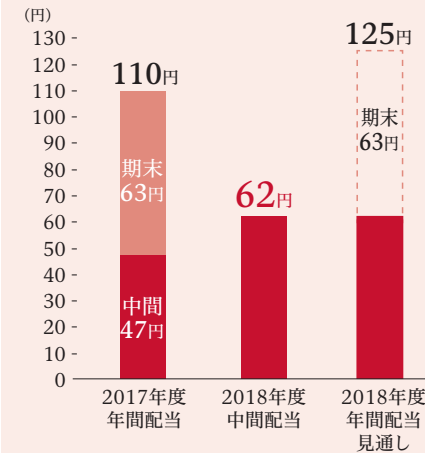
※1「当期純利益」は、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益」を表しています。
また、「資本」は、資本合計のうち、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する持分」を表しています。

※2 営業収益キャッシュ・フローは、資産負債の増減の影響を控除した営業キャッシュ・フローです。
(連結純利益(非支配持分を含む) - 減価償却費 - 投資活動関連損益 - 未配当の持分法損益 - 貸倒費用等 - 繰延税金)

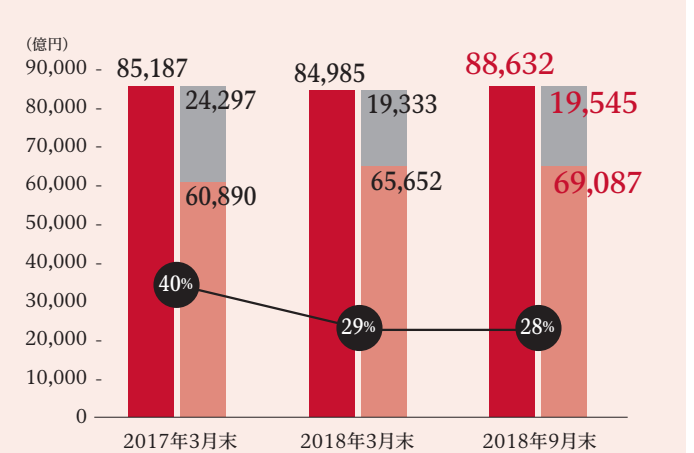
その他の指標・数字

収益 **79,432** 億円 総資産 **166,137** 億円 資本 **56,788** 億円

配当金



投融資レバレッジ



投融資レバレッジ

財務健全性と資本配分の基礎指標として「投融資レバレッジ」を設定し、適正水準を25～35%とします。
2018年度第2四半期末時点の投融資レバレッジは28%でしたが、今後の投資の進捗や利益剰余金の積み上がりに応じて変動する見込みです。

※3 投融資レバレッジとは、当社の投融資残高に対する資本と有利子負債の関係を示したもので、
上図「投融資に見合う有利子負債」÷「資本(含む格付資本)」(%)で計算しています。

※4 資本(含む格付資本)は、非支配持分を含む資本にハイブリッド社債・ローンによる調達額の50%を合算したものです。

業績の詳細については、三菱商事ホームページに掲載しています。

<https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/ir/library/earnings/fs2018.html>

三菱商事 決算公表資料

検索

ビジネスハイライト

2018年度上期のビジネスの動きをお知らせします。



詳細は
P10へ

11

詳細は
P11へ

4

2

6

8

1

5

10

7

3

- 1 2018年5月16日/フィリピン
新産業金融事業グループ
新興中間層向け住宅デベロッパーを設立
- 2 2018年5月22日/日本
エネルギー事業グループ
藻類由来タンパクの生産・食品開発を
手掛けるタベルモに出資
- 3 2018年6月15日、7月27日/ペルー
金属グループ
ケジャベコ銅鉱山の権益を追加取得、
および開発意思決定
- 4 2018年8月1日/日本
地球環境・インフラ事業グループ
福岡空港特定運営事業等に関する
実施契約を締結 [詳細はP11へ](#)
- 5 2018年8月7日/日本
生活産業グループ
米飯・惣菜製造販売会社の
株式会社グルメリカを子会社化
- 6 2018年8月17日/バングラデシュ
地球環境・インフラ事業グループ、エネルギー事業グループ、機械グループ
液化天然ガス受入基地事業に参画
- 7 2018年8月24日/米国
生活産業グループ
当社子会社Indiana Packers Corporationが
Specialty Foods Groupの株式を取得
- 8 2018年8月30日/ベトナム
生活産業グループ
ユニクロベトナム事業のための合弁会社を設立
- 9 2018年9月10日/アフリカ地域
地球環境・インフラ事業グループ
アフリカでのオフグリッド分散電源事業に参画
- 10 2018年9月14日/シンガポール
新産業金融事業グループ
アジア諸国での複合都市開発を担う新会社を設立
- 11 2018年10月2日/カナダ
エネルギー事業グループ
LNGカナダプロジェクトの最終投資決定
[詳細はP10へ](#)



プロジェクト完成予想図。2020年代中頃に生産を開始し、生産期間は40年間を予定。三菱商事の持分比率は15%

LNGカナダプロジェクトの最終投資決定

エネルギー事業グループ

2018年10月2日、三菱商事はカナダのブリティッシュ・コロンビア(BC)州で進めているLNGカナダプロジェクトの最終投資決定を行いました。このプロジェクトは、Shell(英国、オランダ)、PETRONAS(マレーシア)、PetroChina(中国)、KOGAS(韓国)と共同で展開するカナダ初の大型液化天然ガス(LNG)事業です。これにより、日本を中心としたアジアの需要家にとって、地理的に近いカナダの豊富な天然ガスという、新たなLNGの安定供給元が加わります。

本プロジェクトでは年間1,400万トンの生産能力を持つ天然ガス液化設備(三菱商事の持分は210万トン)をBC州キティマツ港に建設し、アジアを中心にLNGを供給していきます。また、同州で開発中のMontney事業*からの原料ガス供給により、三菱商事はカナダにおいて上流から中流にわたる天然ガス・バリューチェーンを構築します。

約50年にわたるLNG事業実績を持つ三菱商事は、本プロジェクトを通じて西カナダの雇用拡大、経済発展に寄与するとともに、環境負荷の低いLNG事業の推進とエネルギーの安定供給に貢献することで、経済価値・社会価値・環境価値の三価値同時実現を目指します。

※三菱商事がBC州にて推進中のシェールガス開発事業。今号の表紙写真は、同事業の掘削現場。

キティマツ港



ビジネスハイライト

国際線地区イメージ。2025年の増設滑走路の供用開始に合わせて、旅客数1,600万人対応の国際線旅客ビル施設に拡充を目指す

福岡空港特定運営事業等に関する実施契約を締結

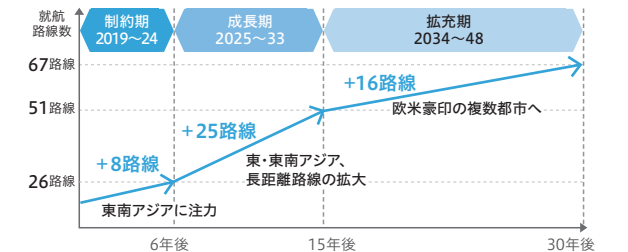
地球環境・インフラ事業グループ

2018年8月1日、福岡エアポートホールディングスを代表企業として、西日本鉄道、三菱商事、Changi Airports International Pte. Ltd.(シンガポール)、九州電力で構成されるコンソーシアム、「福岡エアポートHDグループ」が出資する福岡国際空港株式会社は、福岡空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約を締結しました。これにより、三菱商事は、福岡空港運営事業に参画することとなりました。

旅行者やエアラインから選ばれる空港へと発展させるべく、2019年4月1日からの空港運営事業の開始に向けて準備を進めていきます。具体的には、分かりやすい着陸料金体系や路線の定着を図る長期割引の導入などで国際線・国内線の航空ネットワーク拡大に取り組みます。旅行者・訪問客には、

チェックインや保安検査等におけるより利便性の高いサービスの提供に加え、飲食、物販、エンターテインメント等での斬新な商業展開で、楽しく過ごせる空港づくりを目指します。また、地域との共生を継承、実施しつつ安全・安心な空港運営を通じて、空港周辺地域の活性化と九州・西日本の経済発展に貢献していきます。

トップクラスの国際空港に向けて



国内線地区のイメージ。都市型空港として都市の役割、機能の一部を補完する「エアポートシティ」の実現に向け、ホテルやオフィス機能に加え、複合商業施設の新設などで集客機能を強化

相手あってのビジネス。 この国の未来を 仲間と共につくりたい

ナイジェリア三菱商事 社長
増永寛文 (写真中央)

ナイジェリアと東京をつなぐ社長という役割

2017年4月、増永寛文は三菱商事のアフリカ現地法人、ナイジェリア三菱商事の社長に就任しました。「新たな赴任先が未経験のアフリカ、それも現地法人の社長とは、まさに青天の霹靂でした。ただ、むしろ先入観なくチャレンジできるのでは、とすぐ気持ちを切り替えました」。しかし、着任後、初の社内ミーティングで、三菱商事グループの戦略・方針が、背景を含めて深く理解されていないという印象を持ったと言う増永。「現地スタッフは、誰よりもナイジェリアのことを熟知するエキスパート。

そんな現地スタッフと東京本店との間をしっかりとつなぐのが社長としての自分の役割と考え、コミュニケーションを密にした会社運営を目指し、月次の個別面談を制度化しました」。仕事以外のことでも何でも話してほしいと言う増永に対し、家族のことやこの国の風習などを頻繁に話してくれるようになったと言います。「将来、この国の医療や教育の向上に貢献できるビジネスがしたいという熱い夢を語る社員もいました」。

求められる役割を自分の言葉で伝える

増永は、東京から持ち帰った会議の資料は英語に翻訳し、そこに込められた意図も含めて現地スタッフに伝えました。そして、営業グループの戦略・方針の説明にとどまらず、三菱商事全体が目指す企業像などについて解説し、ナイジェリア三菱商事の現状を照らし合わせ、“自分たちに求められている役割は何か”を自分の言葉で説明することに力を注ぎました。「そうしたところ、徐々に社員が自発的に行動するようになり、質問を受ける機会も多くなりました。こうして、少しずつお互いの信頼が深まっていくことで、職場での会話や笑顔も増え、周りから期待されている“新規ビジネス創出”に向け、全員一丸となってやっという機運も高まっているように感じます」。

ナイジェリア三菱商事

1969年設立。化学品を中心としたトレーディングや市場開発、グローバルな食料企業のOlamやトルコのCalikグループを中心とした事業会社、パートナー支援などを展開しています。

常に感謝と尊敬の気持ちで

最近、最も印象に残っているのが、「ナイジェリア国民の幸せな生活のためには何が必要か」という現地の政府関係者からの質問だと言う増永。「その時は月並みな答えしかできませんでしたが、自分の立ち位置について考えさせられました。企業の代表と面談する際も、『三菱商事グループは、この国のためにどんなすごいことをやってくれるのか』という期待の高さを肌で感じます。彼らの期待に応え、win-winの関係を築くためには、日頃の人間関係と同じく、常に尊敬の念を忘れずに事業を行うことが大切であり、こちらのやりたいことを前面に出すのではなく、事業をさせていただくという感謝の気持ちで、当地のニーズに寄り添っていくことが何よりも重要であると日々感じています」。

2040年代、世界第3位の人口大国となるナイジェリアには、計り知れないポテンシャルがあります。「他のスタッフと共に日々成長しながら、この国の豊かな未来に貢献するという大きな夢を追い続けたいと思っています」。



ナイジェリア最大の街、ラゴスに拠点を置く

三菱商事の 女性活躍 推進



三菱商事にとって最大の資産が「人材」です。
連結・グローバルベースでの人材育成・活躍推進(人材マネジメント)に取り組んでいる中で、
今回は「女性活躍推進」について、その考え方や取組をご紹介します。

三菱商事は、2014年10月に女性活躍・ダイバーシティ室を設置して以来、女性の活躍を中心としたダイバーシティ推進に取り組んでいます。具体的には、女性のキャリア形成と継続のために、育児休職からのスムーズな復帰をサポートするための託児所の確保、個々のライフイベントを考慮し、可能な限り計画的な海外駐在も含めたキャリアづくりに注力し、そのために必要なサポートを実施しています。

また、三菱商事の人事の基本は“男女問わず、能力と実績・貢献度に応じて適切に評価し、適時、適材適所を実現すること”にあります。一方、女性の働き方は一層多様になり、中でも、育児をしながら働く女性は、時間的制約等、働く上での前提条件が大きく異なるため、女性社員が能力を最大限に発揮できるような、環境整備に取り組んでいます。今号ではグローバルな舞台上で活躍する女性社員の中から、2人の社員をご紹介します。

グローバルに活躍する三菱商事の女性社員

アンテナを高く、新たな ビジネスモデルの創造に挑戦



分散型太陽光発電事業を展開するDGCの出資先、Nexamp社のメンバーと(前列右から2人目が若狭)

Diamond Generating Corporation (DGC)
Finance Assistant Director

若狭聡子

米国ロサンゼルスに本拠を置き、三菱商事の米国発電事業を統括するDiamond Generating Corporation (DGC、三菱商事100%出資)。三菱商事入社以来、海外電力事業畑を歩んできた若狭聡子は、2016年に同社へ出向しました。

若手時代にグローバル研修生※としてDGCに派遣された経験がある若狭にとって約5年ぶりの米国。その間、小規模太陽光発電や蓄電などによる分散型電源の普及・拡大といった大きな構造変化が起こっていました。DGCはその変化を捉え、分散型太陽光発電事業会社と電力マーケティング・トレーディング会社を買収、若狭はその2社の経営サポートの担当になりました。「出向当初は、日々のキャッチアップに必死でした。上司から、若狭に仕事を任せるのは不安だと厳しい言葉を掛けられたこともありましたが、それでも、DGCや買収先のプロ集団の中で、自分にはどのような付加価値を生み出せるのかを考え抜きました」。そこで若狭は、直面していた課題に対して自分なりの仮説を立て、積極的に意見を

発信し、提案することを心掛けたと言います。このような姿勢と丁寧な仕事ぶりで、若狭は徐々に信頼を獲得していきました。「赴任して1年後、事業計画の見直しに携わることになりました。他の社員と協力しながら計画をつくり上げた時、上司から、よくやった、この後も任せたと言葉を掛けてもらったのは、うれしかったですね」。ダイナミックに変化する電力業界に身を置く中で、若狭はこれから業界が向かう先を見据えて仕事に臨んでいると言います。「単に業界のプロフェッショナルになるのではなく、ビジネスモデルを深化させ、新たなバリューチェーンを構築すること。これこそが三菱商事の社員に求められていると感じています」。若狭は、担当の買収案件を完了させ、現在、ボストンの新オフィス(DGC支店)を舞台に、新たな挑戦を続けています。

※三菱商事では、原則として入社8年目までの全職員を対象に海外経験を積ませることをしています。海外での実務研修を主軸に、海外のビジネススクールへの派遣や世界各国の文化と言語を習得するための語学研修も含め、年間約120名の若手社員を対象に実施しています。

仕事にも活きる、子育てを通じて広がるネットワーク



Mitsubishi Development Pty Ltd (MDP)
Head of Legal and Compliance Division

石原聖子

MDP50周年記念式典にてMDPの仲間と。右から2人目が石原



ブリスベンの街を南北に分けるブリスベン川から眺めた街並み。「仕事や生活に必要なものがコンパクトに集まっていて、住民もおおらかで優しく、子どもにもフレンドリーに接してくれるので過ごしやすい街です」

こう側から、子どもの声が聞こえることもあり、仕事と子育てをごく自然に両立させている当地の仲間から勇気もらった気持ちになります」。

子どもとの海外赴任に不安はあったそうですが、赴任前にブリスベン駐在経験のある三菱商事社員から現地の学校や生活面について説明してもらうなどのサポートもありました。また、子連れ赴任に対する会社の支援施策や、MDPの上司や同僚たちの仕事と育児の両立に対する理解も石原にとって心強いものとなっています。MDPには子育て中の社員が多く、週末には自宅に招かれたり、公園でのバーベキューに参加したりと、単身で海外赴任した時には経験できなかった子育てを通じたネットワークが、石原自身の世界を広げています。「会社でもお互いの家族のことを話題にすることで、会話が弾みます」と笑顔で話す石原。「海外事業投資先への出向は貴重な機会。私の経験が、同じ立場の社員のために今後少しでも役立てられたらと思っています」。



人事担当役員より

取締役 常務執行役員
コーポレート担当役員(広報、人事)
村越 晃

三菱商事は、グローバルにあらゆる産業・ステージでビジネスを展開しています。そのため、性別・国籍・年齢にとらわれず、能力や実際の功績に応じた評価をすることで、適時、適材適所の人材配置を行い、多様性を維持することが持続的成長につながるという考えが根底にあります。特に女性には、出産などのライフイベントがありますが、働く意欲のある人が、個々の状況に応じて意欲的に仕事をできる施策をとっています。

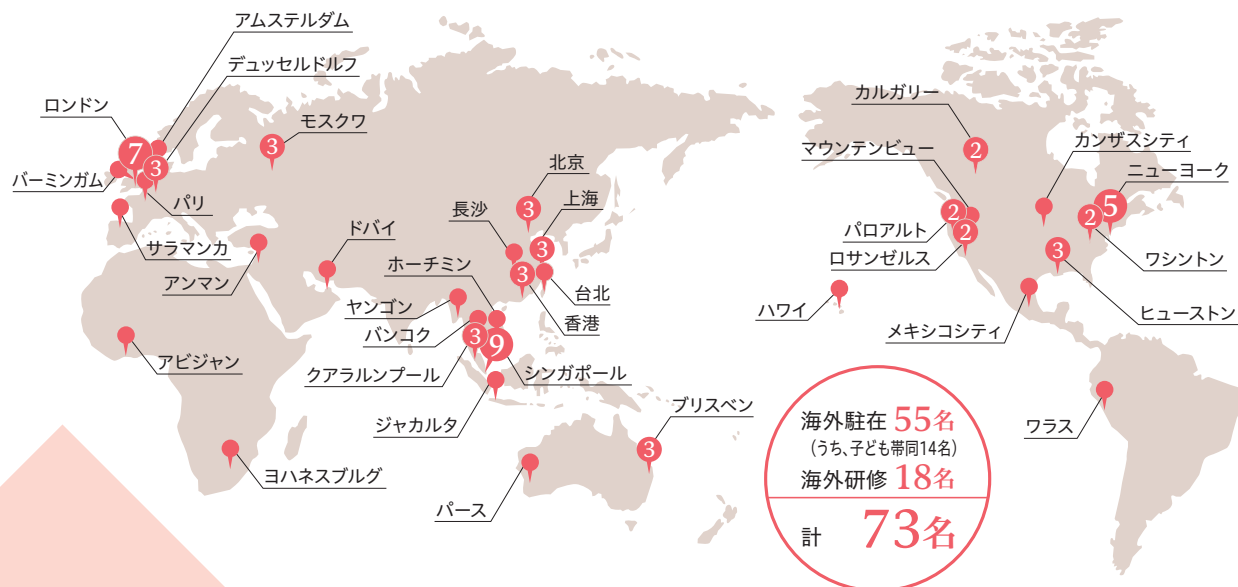


社外監査役より

監査役
高山 靖子

三菱商事では、男女共に、仕事と育児・介護の両立支援のための制度は十分に整備されており、人事評価・処遇においても公正かつ公平な運用を進めています。今後は、多くの女性社員が更なるキャリアアップを図れるよう、社内の各組織のマネジメント層が女性社員に対し、よりチャレンジングな仕事を任せていけるような風土づくりを期待しています。

世界でチャレンジする女性社員(2018年4月現在)



ふくしま逢瀬ワイナリー 「郡山産ワイン」醸造開始！



2015年より三菱商事復興支援財団が進める「ふくしまワイナリープロジェクト」。
この秋、2015年に植えたワイン用ブドウが実りの時を迎え、いよいよ郡山産ワインの醸造が始まりました。



プロジェクト開始から3年。待望の「郡山産ワイン」

風評被害に苦しむ福島県の復興に貢献できないか——こうした思いから三菱商事復興支援財団は、2015年2月に福島県郡山市と連携協定を結び、福島県の特産品である果物の生産・加工・販売を一貫して運営する6次産業化プロジェクト※を開始しました。郡山市逢瀬町にワインやリキュールの醸造所「ふくしま逢瀬ワイナリー」を建設するとともに、新たにワイン用ブドウを生産する農家の育成を

始め、農家の方々に苗木を植えていただきました。このプロジェクトが発足した際に植えた苗が育ち、この秋に初収穫を迎え、ワインの醸造が始まっています。郡山市、農家の方々をはじめ、このプロジェクトを推進してきた皆様の思いの詰まった待望の「郡山産ワイン」は、春を迎える頃に販売開始予定です。

※6次産業化プロジェクト：生産・加工・販売を一体化し、農産物や地元ブランドの付加価値を高め、雇用創出や地域経済の活性化を促進するプロジェクト。



ふくしま逢瀬ワイナリーに
お越しく下さい！

ふくしま逢瀬ワイナリー内には、「ワインショップ」が開設されており、福島県産の桃や梨、リンゴを原料にした「リキュール」や、さまざまな品評会で受賞した「シードル」など、自社製品をお試しいただけます。多くの人が集い、憩い、交流する場を目指して、さまざまなイベントも開催しています。



ワインショップ

ふくしま逢瀬ワイナリー

営業時間：10:00～16:00

休業日：月曜日 ※1～3月は水・土のみの営業

お問い合わせ

電話：0120-320307(10:00～17:00)

メール：info@ousewinery.jp

ホームページ：www.ousewinery.jp

福島県郡山市逢瀬町多田野字郷士郷士2番地

Facebookページを
ご覧ください！

収穫の様子やイベント情報など
最新の情報を掲載しています。



おすすめ商品 「CIDRE 2016」

フジ・シードル・チャレンジ
2018 銀賞
ジャパン・シードル・アワード
2018 銅賞
2018インターナショナル・
サイダー・チャレンジ 銅賞



CSR TOPICS

愛媛県、広島県で西日本豪雨ボランティア活動を実施

三菱商事は、2018年7月上旬の西日本豪雨で大きな被害を受けた愛媛県、広島県において、ボランティア活動を実施しました。

7月下旬から10月にかけて関西、四国、中国、東京から130人以上の三菱商事および三菱商事グループ企業のボランティアが被災地に赴き、愛媛県では県西部の西予市で、広島県では広島市に隣接する安芸郡海田町や坂町などでそれぞれ活動しました。



三菱ゆかりの地を訪ねて



小岩井農場

～日本の農牧事業の発展に情熱～

(岩手県雫石町)

雄大な岩手山麓に広がる緑の大地。岩手県出身の作家、宮沢賢治の作品にも数多く登場する小岩井農場は、県内有数の観光スポットとして毎年多くの人を訪れています。

1891(明治24)年、日本鉄道会社副社長の小野義真と三菱第二代社長岩崎彌之助(三菱の創業者・岩崎彌太郎の弟)、鉄道庁長官の井上勝の3人が、東北地方への鉄道開通を機に食料増産のため農牧事業を起こそうと農場を開設。3人の名字から1文字ずつ取って「小岩井」と命名しました。その後、岩崎家の個人経



岩崎彌之助



岩崎久彌

写真提供:三菱史料館

営となり、事業を引き継いだ第三代社長の久彌(彌太郎の長男)が畜産を経営の中心に据え、酪農製品の製造技術の確立と競走馬の育成にも力を注ぎました。

東京ドーム約640個分に及ぶ日本最大級の農場には、牛舎やサイロなど歴史的建造物が点在し、ガイド付きツアーで見学することができます。日本の農牧事業発展に情熱を傾けた彌之助と久彌の思いが今も伝わるこの地で、桜や紅葉などの四季折々の美しい自然と現地でしか味わえない食事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

小岩井農場の見どころ

一号サイロ、二号サイロ



一号サイロは1907(明治40)年、二号サイロはその翌年に建設されました。どちらもレンガ造りで、青草を与えられない冬場の家畜の飼料として、発酵飼料(サイレージ)を作っていました。現存する日本最古のサイロといわれています。

一号牛舎



1934(昭和9)年建設。久彌の「30年後も恥ずかしくない牛舎を」との命により建てられた当時最新鋭のスタンション式を採用入れた搾乳牛舎。現在も68頭を収容する搾乳用牛舎として使用しています。

食事とお土産



農場内の「まきば園」では焼肉や洋食などのレストランのほか、小岩井農場でしか手に入らない、新鮮な生乳から作られるチーズや牛乳などの乳製品を味わえます。

ガイド付きバスツアー



「日本の20世紀遺産20選」に選ばれた小岩井農場には、重要文化財に指定された21の歴史的建造物があり、その多くが現在も使用されています。これらの建造物や非公開の生産現場などを、専門のガイドが案内してくれます(所要時間約45分)。

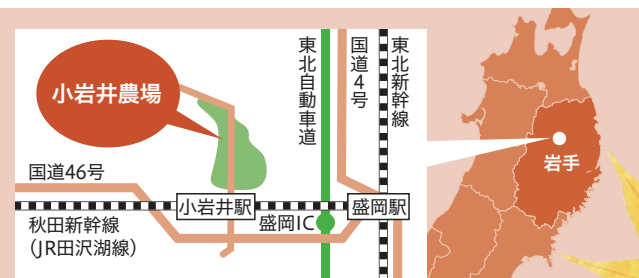
アクセス

住所: 岩手県岩手郡雫石町丸谷地36-1

電話: 019-692-4321

交通: JR小岩井駅よりタクシーで約10~15分
JR盛岡駅よりバスで約30分

入場料、開園時間などは時期によって異なりますので、小岩井農場ホームページをご覧ください。
<https://www.koiwai.co.jp/makiba/>



写真提供:小岩井農牧(株)

会社情報

コーポレートデータ (2018年9月30日現在)

社名	三菱商事株式会社
創立	1954年7月1日(設立1950年4月1日)
資本金	204,446,667,326円
本店登記地	三菱商事ビルディング 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号
従業員数	連結77,476名、単体 6,129名 ※2018年3月31日時点。また、連結従業員数は就業人員数を記載しています。
連結対象会社数	1,424社

取締役および監査役 (2018年9月30日現在)

取締役会長 小林 健	取締役(社外) 西山昭彦 (立命館大学教授)
*取締役社長 垣内威彦	取締役(社外) 大宮英明 (三菱重工業(株)取締役会長)
*取締役常務執行役員 西浦 完司	取締役(社外) 岡 俊子 ((株)岡&カンパニー 代表取締役)
*取締役常務執行役員 増 一行	取締役(社外) 齋木昭隆
取締役常務執行役員 戸出 巖	取締役(社外) 立岡 恒良
取締役常務執行役員 村越 晃	常任監査役(常勤) 内野州馬
*取締役常務執行役員 榎田雅和	監査役(常勤) 木崎 博
*取締役常務執行役員 鴨脚 光眞	監査役(社外) 國廣 正 (国広総合法律事務所 弁護士)
	監査役(社外) 西川 郁生
	監査役(社外) 高山 靖子

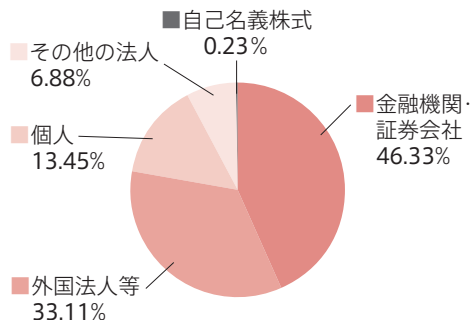
※*は代表取締役を示しています。
 ※すべての社外取締役および社外監査役を、(株)東京証券取引所など、国内の金融商品取引所が定める独立役員として指定しています。

株式等の状況 (2018年9月30日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数	25億株
発行済株式総数	1,590,076,851株
株主数	215,629名

株主構成(所有者別の持株比率)



三菱商事の事業活動やサステナビリティ、投資家情報、最新の統合報告書など詳しくはホームページをご参照ください。
<https://www.mitsubishicorp.com>

株主メモ

証券コード	8058
上場証券取引所	東京、名古屋
単元株式数	100株
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
公告方法	電子公告

ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載します。

〈公告掲載アドレス〉<https://www.mitsubishicorp.com>

株主名簿管理人・特別口座管理機関
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 (連絡先) 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 0120-232-711 (通話料無料)
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※住所変更等の各種お手続きについては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 ※支払開始日から満3年を経過していない未受領の配当金、および特別口座に記録された株式に関するお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

マイナンバー制度に関するお手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引のある証券会社等へ、以下のとおりマイナンバーを届出いただく必要があります。

- **株式関係事務におけるマイナンバーの利用目的**
 法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署に提出いたします。
- **マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先**

証券会社の口座で株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

証券会社とのお取引がない株主様

下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 0120-232-711 (通話料無料)

今号の表紙

カナダ・シェールガス開発事業掘削現場

カナダのブリティッシュ・コロンビア州で、三菱商事が同国最大の天然ガス事業者であるエンカナ社と共に推進中のシェールガス開発事業。同事業で生産される天然ガスは原料ガスとして「LNGカナダプロジェクト」にも供給されます(同プロジェクトの詳細はP10をご参照ください)。

2011年度よりスタートした株主の皆様とともに推進する地球環境の保全・改善活動『株主の皆様と共に育む豊かな森づくり』。
 「株主総会招集ご通知」や「株主通信」など、株主の皆様へ紙で郵送している資料をEメールでお送りすることに賛同いただきますと、株主一人様につき半期に1本、マレーシアで植樹を行います。2018年度上期は、1万8,398名の皆様にご協力いただき、これまでに累計33万4,083本の植樹が実現しました。

※詳しくはHPをご覧ください。 [三菱商事 森づくり](#)



静嘉堂文庫美術館の展覧会

～桐村喜世美氏所蔵品受贈記念～ 岩崎家のお雛さまと御所人形

2019年1月29日(火)～3月24日(日)

【休館日】毎週月曜日(ただし2月11日(月)は開館)、2月12日(火)



五世大木平蔵「岩崎家雛人形」のうち内裏雛
昭和初期(桐村喜世美氏寄贈作品)



五世大木平蔵
「木彫彩色御所人形」の
うち「綱車曳き」
昭和14(1939)年

岩崎小彌太が、夫人孝子のために京人形司・五世大木平蔵にあつらえさせた愛らしい雛人形は、戦後散逸しましたが、桐村喜世美氏の情熱によって収集・愛玩され、2018年、そろって静嘉堂に寄贈されました。また、小彌太の還暦祝いに夫人から贈られた、58軀からなる「木彫彩色御所人形」も、他の名品とともに8年ぶりの公開です。喜びの表情にあふれる人形たちの姿を、庭の紅白梅も芳しい季節(～2月)に、どうぞお楽しみください。

今後の
展覧会の予定

「書物に見る海外との交流の歴史」(仮)
2019年6月22日(土)～8月4日(日)

日本刀の華 備前刀

2019年4月13日(土)～6月2日(日)

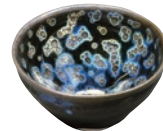
【休館日】毎週月曜日(ただし4月29日(月)・5月6日(月)は開館)、5月7日(火)



重要文化財「古備前高綱太刀」(鎌倉時代・12～13世紀)
および「附「朱塗鞘打刀拵」(桃山時代・16世紀)

日本刀の主要製作国(山城・大和・備前・相模・美濃)のうち、備前の地(岡山県南東部)は、上質な原料や水運の利に恵まれ、平安以来優れた刀工を輩出したことから「刀剣王国」と称されています。備前刀の豪壮にして華やかな作風は、鎌倉武士や戦国武将たちをはじめ多くの人々を魅了してきました。本展では、静嘉堂の蔵刀より、重要文化財4振、重要美術品11振を含む銘作約30振を精選し、「古備前」と呼ばれる初期の作風から、一文字・長船など各派による作風の展開をたどっていきます。

国宝「曜変天目」
特別出品決定!



国宝「曜変天目」建窯
(南宋時代・12～13世紀)

住 所 東京都世田谷区岡本2-23-1

T E L 03-5777-8600(ハローダイヤル)

入 館 料 一般1,000円・大高生700円(20名以上団体割引あり)、
中学生以下無料

アクセス 二子玉川駅バスターミナル④番から「玉31・32系統」で
「静嘉堂文庫」下車徒歩約5分、または二子玉川駅から
タクシーで約10分

開館時間 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休 館 日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し翌火曜日休館)
ただし、展示替作業のため、臨時に休館することが
ありますので、詳しくはホームページをご覧ください。

U R L <http://www.seikado.or.jp/>

